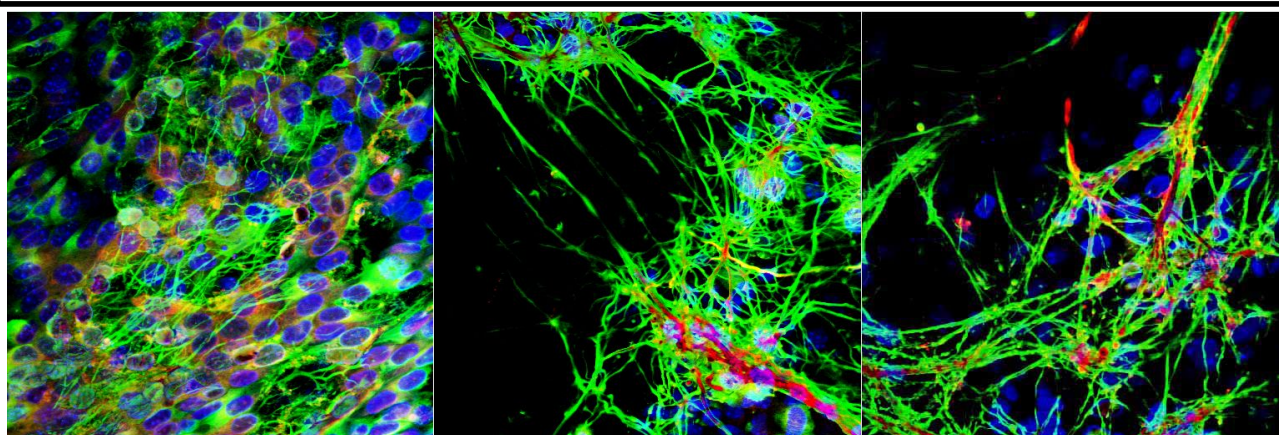


頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究（整理番号：S2603）

【派遣報告(短期派遣)】

タイトル： パドヴァ大学短期派遣
派遣者： 笠原 敦子（大阪大学 薬学研究科）
派遣先： パドヴァ大学(イタリア)
報告日： 2015年12月24日



頭脳循環プログラムより、2015年6月1日から12月21日まで、イタリア・パドヴァ大学のScorrano研に派遣していただきました。

ジュネーブ大からの古巣であるScorrano研を再訪問する機会をいただいて、カルシニューリンによるNotch1シグナルの調節の可能性についての検証を開始しました。カルシニューリン活性によって活性型Notch1がどのように変化するかを解析するため、活性型Notch1のタンパク質単離の条件設定を行いました。また、Scorrano博士の助言によって、ES細胞から神経分化過程でのミトコンドリアの動態を観察するために、ジュネーブ大からES細胞を移動させ、神経分化実験の立ち上げを行いました。アクソンや樹状突起の特異的マーカーで免疫染色する条件設定を行い、写真のように非常に効率良く分化した神経細胞を観察することができました。

派遣開始が夏休み前だったこともあり、試薬の到着等に時間がかかり、実験の立ち上げに時間がかかりましたが、新谷博士やScorrano研、Ziviani研、Soriano研からのサポートや充実したディスカッション等で非常に有意義な派遣となりました。また、大阪大学からのサポート、特に試薬を送っていただいて、とても助かりました。